



藤本 みのる 通信

Vol 282

2018年1月23日発行

大月市議会議員



自宅 大月市猿橋町小篠 8 5 3

電話/FAX 0 5 5 4 - 5 6 - 7 2 7 2

病院の運営形態の見直しについて(1)

佐藤二郎院長（9月に就任）が、18日の議員定例懇談会で市立中央病院の運営形態の見直しについて説明しました。病院運営委員会の提言書は、指定管理者制度（公設民営）を提言しましたが、院長はリスクを考え、地方独立行政法人（非公務員型）への移行を進めたいと述べました。

運営形態の見直しに踏み切る理由は、提言書をふまえ、抜本的な病院改革が必要であると考えたから。さらに、女子医大が医師派遣を十分にできず本年3月末の関連病院協定の更新が厳しくなっていること、そのため切迫しているが独自に医師を確保する裁量権を増やしたい。そのことにより経営を再建して市立病院を存続させていきたいと決意を込めました。

今後「東京女子医科大学との関連病院協定契約終了後は、山梨大学附属病院との連携強化が最善策」であり、「山梨大学附属病院との連携についても手ごたえがあり、運営形態の見直しによりまず他大から複数の医師に来ていただける手ごたえがある」と述べました。

ちなみに、外科医3名の退職以外は、女子医からの常勤医派遣は継続される見込み。独法後、病院職員は非公務員となるが、「処遇は維持される」ということです。（つづく）

大月病院の常勤医師数

（28年度決算書より推計）

新病棟ができ常勤医の派遣が増やされる予定だったが…

28年4月 10名

7月 6名

29年3月 11名

内科 5名

外科 4名

眼科 1名

麻酔科 1名

◆佐藤院長のお話◆

女子医大としては関連病院協定の更新は厳しい状況

30年3月末 8名

内科 5名

外科 1名（-3名）

眼科 1名

麻酔科 1名

このままでは4月から病床の全面休床も視野に入れざるを得ない

→そこで公設公営の経営形態を保ちつつ、病院改革を断行したい

【藤本みのる活動日誌】

1月18日(木) 議員定例懇談会、特別委員会